令和４年５月23日
ふるさと振興部
調 査 統 計 課

令和４年県民生活基本調査結果（速報）

１　調査の目的

県民の生活や行動に関し、その実態や質的変化を把握し、この調査結果を今後の政策評価や政策評価を踏まえた施策の企画・立案等に活用する。

２　調査の概要

(1) 調査対象　県内に居住する18歳以上の個人
(2) 調査対象者数　5,000人
(3) 抽出方法　選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
(4) 調査方法　設問票によるアンケート調査（郵送法）
(5) 調査時期　令和４年１～２月（隔年調査）
(6) 調査項目　ア　行動・参加等の有無
　　イ　行動・参加等の内容
　　ウ　今後における行動・参加等の意向
(7) 回収者数　3,649人
(8) 有効回収率　73.0%
(9) 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,604	(44.0)
女性	2,019	(55.3)
その他	2	(0.1)
不明	24	(0.7)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	1,052	(28.0)
県南広域振興圏	1,068	(30.6)
沿岸広域振興圏	885	(23.8)
県北広域振興圏	644	(17.6)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	52	(1.4)
20～29歳	222	(6.1)
30～39歳	310	(8.5)
40～49歳	512	(14.0)
50～59歳	615	(16.9)
60～69歳	750	(20.6)
70歳以上	1,140	(31.2)
不明	48	(1.3)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	249	(6.8)
家族従業者	112	(3.1)
会社・団体役員	249	(6.8)
常用雇用者	998	(27.3)
臨時雇用者	452	(12.4)
学生	76	(2.1)
専業主婦(主夫)	425	(11.6)
無職	868	(23.8)
その他	125	(3.4)
不明	95	(2.6)

（　）内は%

（注） 小数点第1位未満四捨五入の関係から、内訳の計が100%にならない場合があります。

設問の構成

この調査の設問は「いわて県民計画（2019～2028）」の10の政策分野に対応して作成しています。

Ⅰ　健康・余暇
～健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手～

設問１	あなたは、生涯学習に取り組んでいますか。
設問２	あなたは、普段、健康に留意して生活していますか。
設問３	あなたは、大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っていますか。
設問４	あなたは、学校行事や地域において子どもを育てる活動に参加していますか。

Ⅱ　家族・子育て
～家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、
また、安心して子育てをすることができる岩手～

Ⅲ　教育
～学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手～

Ⅳ　居住環境・コミュニティ
～不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手～

設問５	あなたは、普段、バスや鉄道などの公共交通機関を利用していますか。

Ⅴ　安全
～災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手～

設問６	あなたは、普段から災害に備え、何らかの準備をしていますか。
設問７	あなたは、犯罪の被害にあわないために、普段どのような行動に努めていますか。
設問８	あなたは、交通安全のために、普段どのような行動に努めていますか。
設問９	あなたは、普段のお買い物の際に、食品の表示を確認していますか。

Ⅵ　仕事・収入
～農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手～

設問10	あなたは、普段、県内産の工芸品を利用していますか。
設問11	あなたは、普段、県内産の農林水産物を利用していますか。

Ⅶ　歴史・文化
～豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手～

設問12	あなたは、地域の伝統芸能活動に参加していますか。

Ⅷ　自然環境
～一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手～

設問13	あなたは、生物多様性の保全につながる行動をしていますか。
設問14	あなたは、ごみの減量化などのため、普段どのような行動に努めていますか。
設問15	あなたは、地球温暖化防止のため、普段どのような行動に努めていますか。

Ⅸ　社会基盤
～防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手～

Ⅹ　参画
～男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、
幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手～

設問16	あなたは、過去１年間にどのような市民活動に参加しましたか。

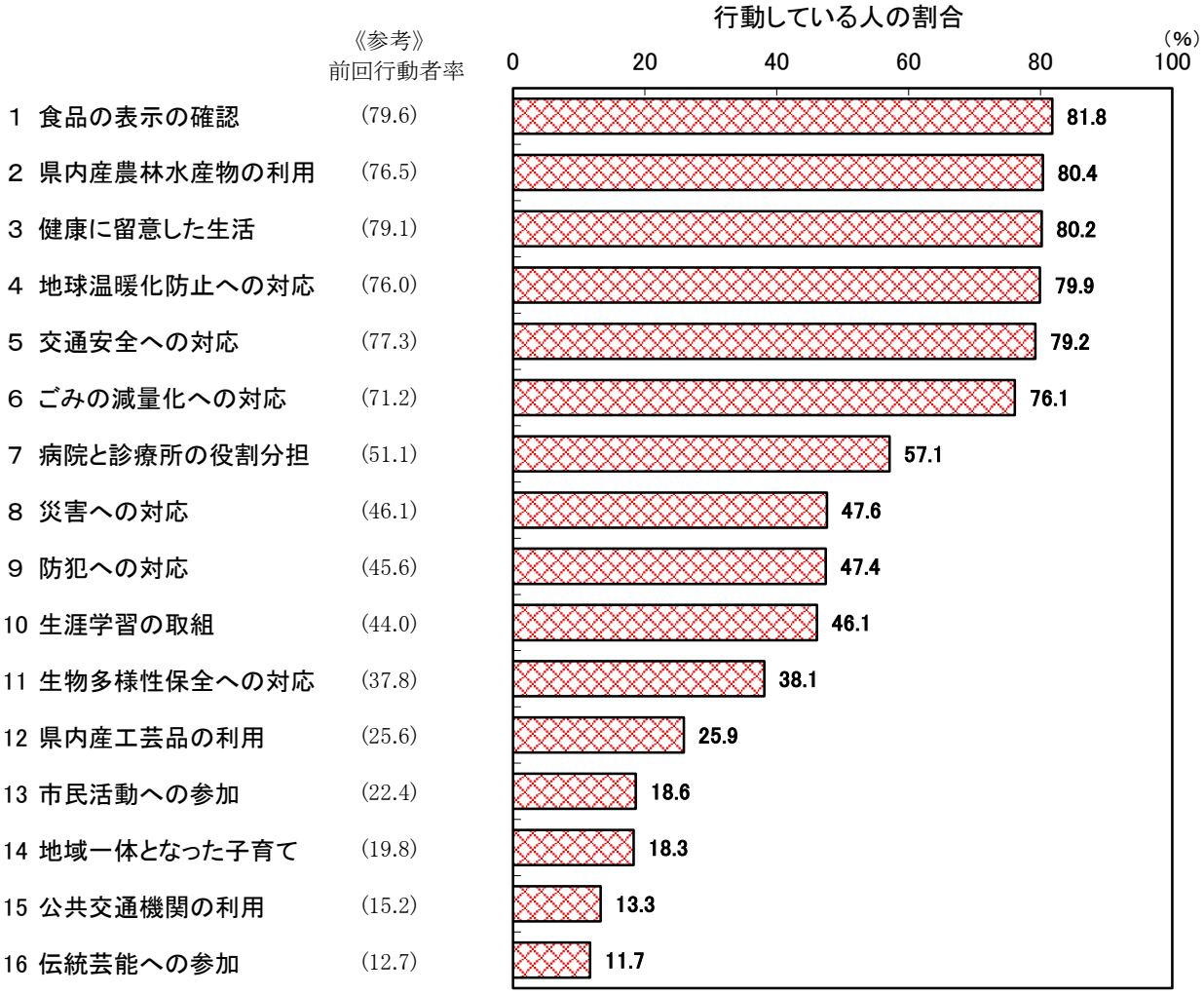
■調査結果の概要■

１　各設問の行動している人の割合

○ 「行動している人の割合」が最も高いのは、「食品の表示の確認」の81.8%であり、８割強の人が普段の買い物の際に食品の表示を確認している。

○ 次いで「行動している人の割合」が高いのは、「県内産農林水産物の利用」の80.4%、「健康に留意した生活」80.2%、「地球温暖化防止への対応」79.9%、「交通安全への対応」79.2%であり、日常生活に密着した項目が上位を占めている。

○ 逆に「行動している人の割合」が低い項目は、「伝統芸能への参加」の11.7%、「公共交通機関の利用」の13.3%となっている。



※　（　）内は前回（令和２年県民生活基本調査）行動者率（%）を参考掲載。「地球温暖化防止への対応」、「病院と診療所の役割分担」及び「生涯学習の取組」は『令和３年県民意識調査』にて調査したため、行動者率は令和３年調査時のものを掲載。

※　「病院と診療所の役割分担」は、大きな病院と診療所の役割分担について、「知っている」と回答した者を「行動している人」に、「知らない」と回答した者を「行動していない人」としている（以下、同様）。

２　居住地（広域振興圏）別調査結果の概要

○ 広域振興圏別に最も行動している人の割合が高い項目をみると、県央と沿岸で「食品の表示の確認」、県南で「健康に留意した生活」、県北で「地球温暖化防止への対応」の割合が最も高くなっている。

※　行動している人の割合が高い順（数値は%）

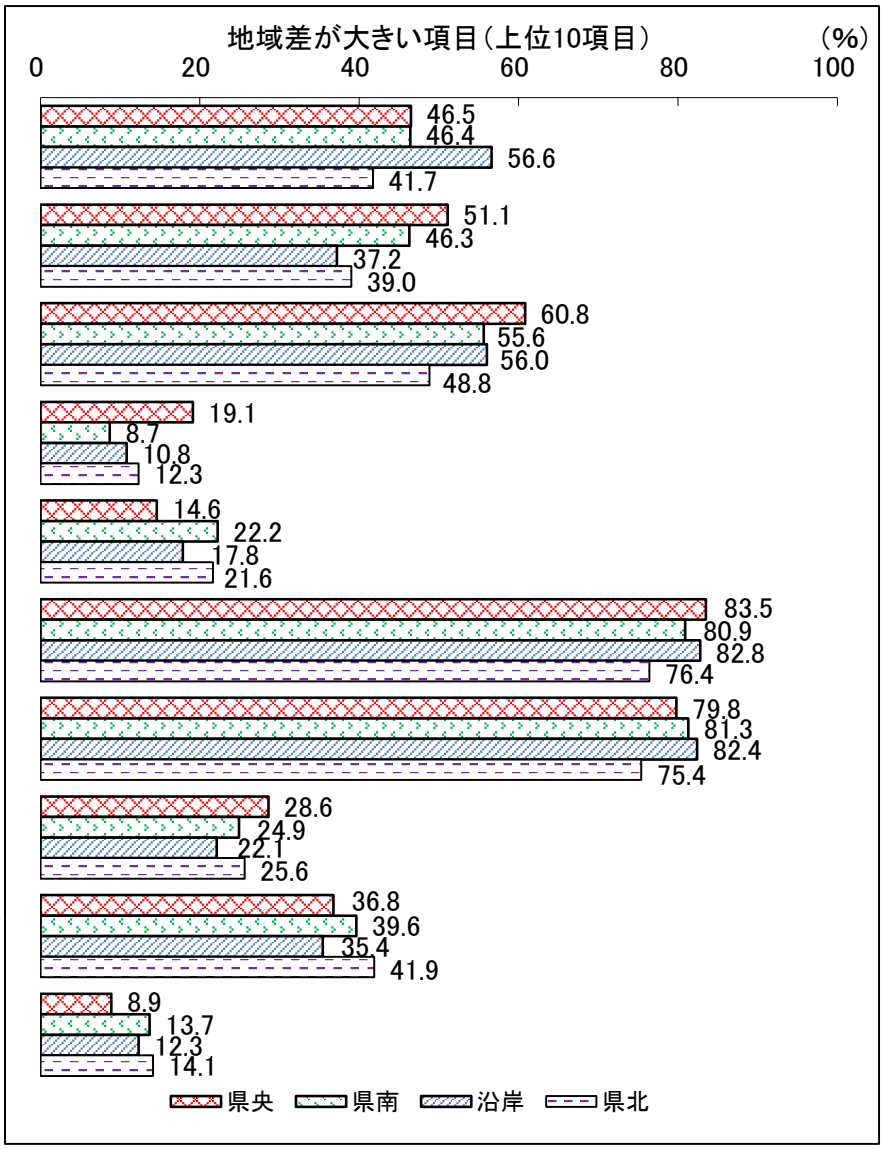
圏域／順位	県央		県南		沿岸		県北	
1	食品の表示の確認	83.5 (79.7)	健康に留意した生活	81.3 (79.1)	食品の表示の確認	82.8 (80.2)	地球温暖化防止への対応	77.6 (75.6)
2	地球温暖化防止への対応	81.1 (81.6)	県内産農林水産物の利用	81.3 (75.4)	県内産農林水産物の利用	82.4 (74.2)	健康に留意した生活	76.7 (76.7)
3	健康に留意した生活	80.6 (81.3)	食品の表示の確認	80.9 (80.3)	健康に留意した生活	79.1 (75.4)	交通安全への対応	76.5 (74.2)
4	交通安全への対応	80.6 (81.2)	地球温暖化防止への対応	80.3 (77.0)	地球温暖化防止への対応	77.5 (75.6)	食品の表示の確認	76.4 (76.2)
5	県内産農林水産物の利用	79.8 (79.2)	交通安全への対応	79.7 (79.3)	交通安全への対応	76.2 (74.6)	県内産農林水産物の利用	75.4 (73.9)
6	ごみの減量化への対応	76.0 (74.4)	ごみの減量化への対応	77.8 (72.0)	ごみの減量化への対応	73.1 (69.5)	ごみの減量化への対応	74.3 (68.9)
7	病院と診療所の役割分担	60.8 (64.2)	病院と診療所の役割分担	55.6 (59.5)	災害への対応	56.6 (55.8)	病院と診療所の役割分担	48.8 (47.5)
8	生涯学習の取組	51.1 (48.0)	防犯への対応	48.3 (46.1)	病院と診療所の役割分担	56.0 (52.1)	防犯への対応	43.1 (42.5)
9	防犯への対応	47.9 (48.2)	災害への対応	46.4 (44.5)	防犯への対応	46.6 (45.6)	生物多様性保全への対応	41.9 (38.5)
10	災害への対応	46.5 (45.1)	生涯学習の取組	46.3 (41.7)	生涯学習の取組	37.2 (35.6)	災害への対応	41.7 (40.8)
11	生物多様性保全への対応	36.8 (38.5)	生物多様性保全への対応	39.6 (39.4)	生物多様性保全への対応	35.4 (35.1)	生涯学習の取組	39.0 (36.9)
12	県内産工芸品の利用	28.6 (31.0)	県内産工芸品の利用	24.9 (24.0)	県内産工芸品の利用	22.1 (18.4)	県内産工芸品の利用	25.6 (22.4)
13	公共交通機関の利用	19.1 (21.8)	市民活動への参加	22.2 (25.3)	市民活動への参加	17.8 (20.5)	市民活動への参加	21.6 (23.6)
14	地域一体となった子育て	16.6 (19.6)	地域一体となった子育て	20.8 (22.2)	地域一体となった子育て	16.4 (16.3)	地域一体となった子育て	18.0 (16.2)
15	市民活動への参加	14.6 (20.4)	伝統芸能への参加	13.7 (12.9)	伝統芸能への参加	12.3 (17.0)	伝統芸能への参加	14.1 (11.7)
16	伝統芸能への参加	8.9 (11.0)	公共交通機関の利用	8.7 (10.9)	公共交通機関の利用	10.8 (12.2)	公共交通機関の利用	12.3 (11.1)

※（　）内は前回数値（%）を参考掲載。
※行動している人の割合が県全体で高い上位５項目を参考塗り分け。

地域差が大きい項目

○ 最も地域差（最大値と最小値の差）が大きい項目は、「災害への対応」で沿岸が56.6%であるのに対し、県北が41.7%となっており、その差は14.9ポイントに達している。

○ 次に地域差が大きい項目は、「生涯学習の取組」で県央が51.1%であるのに対し、沿岸が37.2%となっており、その差は13.9ポイントとなっている。



（参考）前回数値（%）

	病院と診療所の役割分担	災害への対応	県内産工芸品の利用	生涯学習の取組	公共交通機関の利用	交通安全への対応	地球温暖化防止への対応	地域一体となった子育て	伝統芸能への参加	健康に留意した生活
県央	64.2	45.1	31.0	48.0	21.8	81.2	81.6	19.6	11.0	81.3
県南	59.5	44.5	24.0	41.7	10.9	79.3	77.0	22.2	12.9	79.1
沿岸	52.1	55.8	18.4	35.6	12.2	74.6	75.6	16.3	17.0	75.4
県北	47.5	40.8	22.4	36.9	11.1	74.2	75.6	16.2	11.7	76.7
地域差	16.7	15.0	12.6	12.4	10.9	7.0	6.0	6.0	6.0	5.9

※最大値と最小値を塗りつぶし

３　男女別調査結果の概要

○ 男性で行動している人の割合が高い項目は、「交通安全への対応」の79.5%、「地球温暖化防止への対応」の79.1%、「健康に留意した生活」の78.0%などとなっている。

○ 女性で行動している人の割合が高い項目は、「食品の表示の確認」の86.4%、「県内産農林水産物の利用」の84.3%、「健康に留意した生活」の82.1%などとなっている。

※　行動している人の割合が高い順（数値は%）

性別／順位	男性		女性	
1	交通安全への対応	79.5 (80.4)	食品の表示の確認	86.4 (84.8)
2	地球温暖化防止への対応	79.1 (77.2)	県内産農林水産物の利用	84.3 (80.2)
3	健康に留意した生活	78.0 (76.6)	健康に留意した生活	82.1 (81.3)
4	食品の表示の確認	76.0 (73.6)	地球温暖化防止への対応	80.8 (79.6)
5	県内産農林水産物の利用	75.9 (72.3)	交通安全への対応	79.3 (77.7)
6	ごみの減量化への対応	72.6 (68.4)	ごみの減量化への対応	79.0 (75.6)
7	病院と診療所の役割分担	52.5 (56.3)	病院と診療所の役割分担	60.5 (61.7)
8	生涯学習の取組	46.0 (43.5)	災害への対応	49.6 (46.1)
9	防犯への対応	45.5 (47.5)	防犯への対応	49.0 (46.1)
10	災害への対応	45.1 (46.5)	生涯学習の取組	46.4 (42.3)
11	生物多様性保全への対応	40.2 (40.9)	生物多様性保全への対応	36.5 (36.2)
12	県内産工芸品の利用	21.4 (20.9)	県内産工芸品の利用	29.7 (29.5)
13	市民活動への参加	20.7 (25.6)	地域一体となった子育て	19.6 (21.7)
14	地域一体となった子育て	16.7 (17.4)	市民活動への参加	17.1 (20.2)
15	伝統芸能への参加	12.0 (13.8)	公共交通機関の利用	15.2 (18.1)
16	公共交通機関の利用	10.7 (11.9)	伝統芸能への参加	11.6 (11.9)

※（　）内は前回数値（%）を参考掲載。
※行動している人の割合が県全体で高い上位５項目を参考塗り分け。

男女差が大きい項目

○ 男女差（最大値と最小値の差）が大きい上位10項目のうち、男性が女性を上回っている項目の差は、「生物多様性保全への対応」の3.7ポイント、「市民活動への参加」の3.5ポイントとなっている。

○ 一方、女性が男性を上回っている項目の差は、「食品の表示の確認」の10.4ポイント、「県内産農林水産物の利用」の8.4ポイントとなっている。

1 食品の表示の確認
差10.4(11.2)

2 県内産農林水産物の利用
差8.4(7.9)

3 県内産工芸品の利用
差8.3(8.6)

4 病院と診療所の役割分担
差8.0(5.4)

5 ごみの減量化への対応
差6.4(7.2)

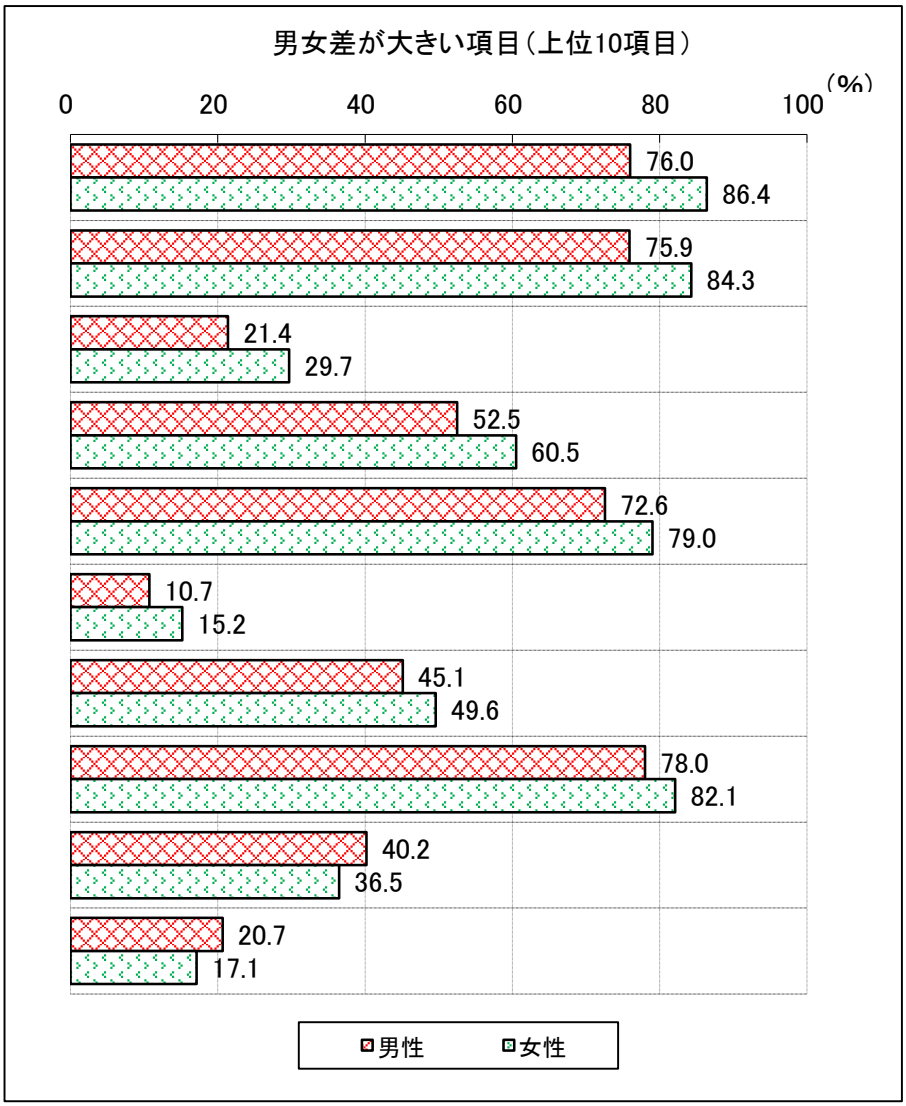
6 公共交通機関の利用
差4.5(6.2)

6 災害への対応
差4.5(0.4)

8 健康に留意した生活
差4.1(4.7)

9 生物多様性保全への対応
差3.7(4.7)

10 市民活動への参加
差3.5(5.4)



（参考）前回数値（%）

	食品の表示の確認	県内産工芸品の利用	県内産農林水産物の利用	ごみの減量化への対応	公共交通機関の利用	市民活動への参加	病院と診療所の役割分担	健康に留意した生活	生物多様性保全への対応	地域一体となった子育て
男	73.6	20.9	72.3	68.4	11.9	25.6	56.3	76.6	40.9	17.4
女	84.8	29.5	80.2	75.6	18.1	20.2	61.7	81.3	36.2	21.7
男女差	11.2	8.6	7.9	7.2	6.2	5.4	5.4	4.7	4.7	4.3

４　年代別調査結果の概要

○「病院と診療所の役割分担」、「県内産工芸品の利用」は、年代が上がるにつれて行動している人の割合がおおむね高くなる傾向にある。

○逆に、「生涯学習の取組」は、年代が上がるにつれて行動している人の割合がおおむね低くなる傾向にある。

※　行動している人の割合が高い順（数値は%）

順位＼年代	18･19歳		20歳代		30歳代		40歳代	
1	地球温暖化防止への対応	83.8 (80.4)	交通安全への対応	81.9 (81.1)	食品の表示の確認	83.9 (76.9)	食品の表示の確認	89.6 (84.0)
2	交通安全への対応	80.8 (82.8)	地球温暖化防止への対応	79.0 (75.8)	交通安全への対応	82.4 (83.6)	交通安全への対応	85.2 (85.4)
3	健康に留意した生活	79.8 (65.7)	食品の表示の確認	76.6 (66.9)	地球温暖化防止への対応	78.5 (77.8)	県内産農林水産物の利用	84.4 (80.4)
4	県内産農林水産物の利用	73.8 (56.9)	ごみの減量化への対応	71.8 (65.4)	県内産農林水産物の利用	74.1 (72.6)	地球温暖化防止への対応	80.4 (78.6)
5	ごみの減量化への対応	71.9 (61.5)	健康に留意した生活	69.6 (71.9)	ごみの減量化への対応	72.4 (68.7)	健康に留意した生活	79.7 (72.0)
6	生涯学習の取組	71.2 (57.8)	県内産農林水産物の利用	68.1 (59.9)	健康に留意した生活	70.2 (68.4)	ごみの減量化への対応	75.4 (74.1)
7	食品の表示の確認	63.5 (55.0)	生涯学習の取組	57.8 (59.1)	生涯学習の取組	57.3 (55.1)	生涯学習の取組	56.7 (53.4)
8	公共交通機関の利用	56.3 (67.8)	防犯への対応	42.2 (39.4)	防犯への対応	46.0 (45.6)	病院と診療所の役割分担	53.3 (55.2)
9	生物多様性保全への対応	48.3 (36.5)	生物多様性保全への対応	38.7 (39.8)	病院と診療所の役割分担	44.3 (43.4)	災害への対応	53.1 (50.7)
10	防犯への対応	46.1 (42.5)	病院と診療所の役割分担	37.0 (38.5)	災害への対応	39.7 (39.7)	防犯への対応	50.9 (48.6)
11	病院と診療所の役割分担	32.6 (19.4)	災害への対応	30.7 (29.0)	生物多様性保全への対応	36.1 (37.4)	生物多様性保全への対応	40.2 (41.5)
12	災害への対応	30.9 (26.3)	公共交通機関の利用	21.3 (26.0)	地域一体となった子育て	28.2 (32.2)	地域一体となった子育て	37.7 (43.9)
13	伝統芸能への参加	17.8 (20.8)	県内産工芸品の利用	15.4 (8.4)	県内産工芸品の利用	16.1 (15.5)	県内産工芸品の利用	24.5 (23.1)
14	地域一体となった子育て	13.0 (9.0)	伝統芸能への参加	7.7 (9.7)	伝統芸能への参加	11.1 (9.7)	市民活動への参加	15.1 (22.4)
15	県内産工芸品の利用	13.0 (11.9)	地域一体となった子育て	7.2 (7.3)	市民活動への参加	10.3 (11.7)	伝統芸能への参加	13.1 (16.3)
16	市民活動への参加	8.4 (13.4)	市民活動への参加	6.1 (9.3)	公共交通機関の利用	9.9 (8.3)	公共交通機関の利用	9.4 (10.0)

※（　）内は前回数値（%）を参考掲載。
※行動している人の割合が県全体で高い上位５項目を参考塗り分け。

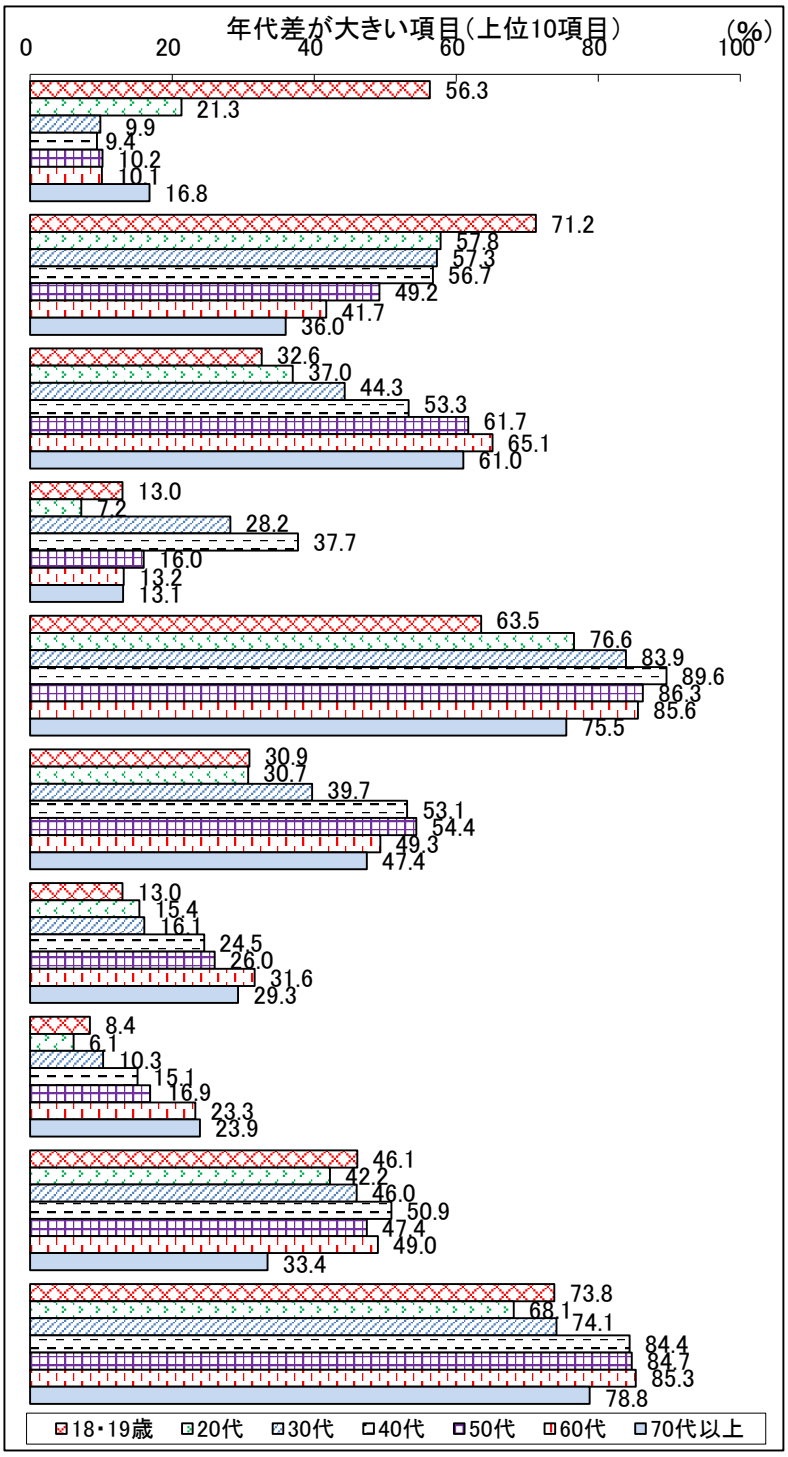
年代差が大きい項目　　（グラフは次ページ）

○ 最も年代差（最大値と最小値の差）が大きい項目は、「公共交通機関の利用」で18・19歳が56.3%であるのに対し、40歳代は9.4%となっており、その差は46.9ポイントに達している。

○ 次に年代差が大きい項目は、「生涯学習の取組」で18・19歳が71.2%であるのに対し、70歳代は36.0%となっており、その差は35.2ポイントとなっている。

○ ３番目に年代差が大きい項目は、「病院と診療所の役割分担」で60歳代が65.1%であるのに対し、18・19歳は32.6%となっており、その差は32.5ポイントとなっている。

順位＼年代	50歳代		60歳代		70歳代以上	
1	食品の表示の確認	86.3 (84.8)	食品の表示の確認	85.6 (83.9)	健康に留意した生活	86.4 (84.8)
2	県内産農林水産物の利用	84.7 (80.5)	県内産農林水産物の利用	85.3 (83.0)	地球温暖化防止への対応	79.0 (75.5)
3	交通安全への対応	83.1 (83.2)	地球温暖化防止への対応	82.8 (81.4)	県内産農林水産物の利用	78.8 (74.5)
4	地球温暖化防止への対応	81.5 (82.1)	ごみの減量化への対応	81.8 (77.4)	食品の表示の確認	75.5 (77.4)
5	健康に留意した生活	81.2 (78.5)	交通安全への対応	81.6 (81.5)	ごみの減量化への対応	75.5 (70.2)
6	ごみの減量化への対応	77.6 (75.1)	健康に留意した生活	80.1 (83.9)	交通安全への対応	71.8 (70.2)
7	病院と診療所の役割分担	61.7 (65.1)	病院と診療所の役割分担	65.1 (67.5)	病院と診療所の役割分担	61.0 (62.5)
8	災害への対応	54.4 (49.6)	災害への対応	49.3 (51.5)	災害への対応	47.4 (45.5)
9	生涯学習の取組	49.2 (43.1)	防犯への対応	49.0 (47.9)	生涯学習の取組	36.0 (33.9)
10	防犯への対応	47.4 (46.7)	生物多様性保全への対応	42.2 (42.2)	防犯への対応	33.4 (47.0)
11	生物多様性保全への対応	41.0 (41.2)	生涯学習の取組	41.7 (39.2)	生物多様性保全への対応	33.4 (32.7)
12	県内産工芸品の利用	26.0 (26.5)	県内産工芸品の利用	31.6 (28.3)	県内産工芸品の利用	29.3 (31.9)
13	市民活動への参加	16.9 (21.2)	市民活動への参加	23.3 (26.9)	市民活動への参加	23.9 (27.1)
14	地域一体となった子育て	16.0 (18.8)	地域一体となった子育て	13.2 (14.0)	公共交通機関の利用	16.8 (19.6)
15	伝統芸能への参加	10.3 (11.6)	伝統芸能への参加	12.9 (12.8)	地域一体となった子育て	13.1 (14.5)
16	公共交通機関の利用	10.2 (7.3)	公共交通機関の利用	10.1 (14.1)	伝統芸能への参加	12.1 (13.1)



（参考）前回数値（%）

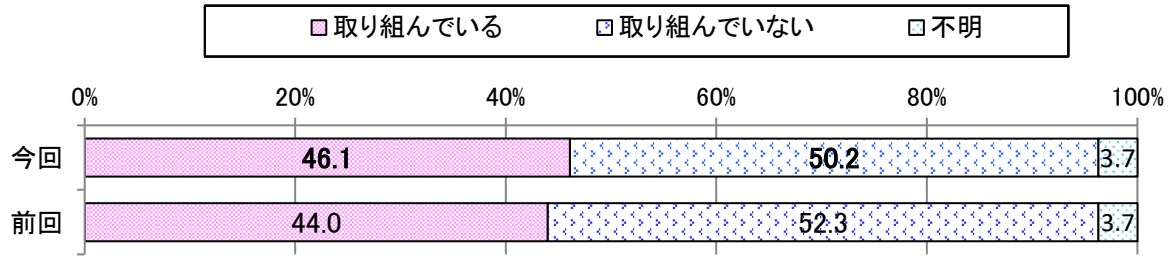
	公共交通機関の利用	病院と診療所の役割分担	地域一体となった子育て	食品の表示の確認	県内産農林水産物の利用	生涯学習の取組	災害への対応	県内産工芸品の利用	健康に留意した生活	市民活動への参加
18.19歳	67.8	19.4	9.0	55.0	56.9	57.8	26.3	11.9	65.7	13.4
20代	26.0	38.5	7.3	66.9	59.9	59.1	29.0	8.4	71.9	9.3
30代	8.3	43.4	32.2	76.9	72.6	55.1	39.7	15.5	68.4	11.7
40代	10.0	55.2	43.9	84.0	80.4	53.4	50.7	23.1	72.0	22.4
50代	7.3	65.1	18.8	84.8	80.5	43.1	49.6	26.5	78.5	21.2
60代	14.1	67.5	14.0	83.9	83.0	39.2	51.5	28.3	83.9	26.9
70代以上	19.6	62.5	14.5	77.4	74.5	33.9	45.5	31.9	84.8	27.1
差	60.5	48.1	36.6	29.8	26.1	25.2	25.2	23.5	19.1	17.8

※最大値と最小値を塗りつぶし

５　主な設問の結果

設問１　生涯学習に取り組んでいますか。

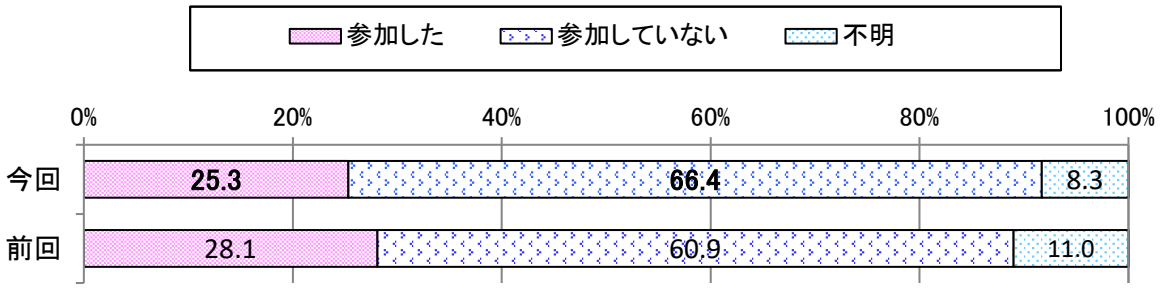
○ 生涯学習に取り組んでいる人の割合は、各調査項目の平均で46.1％となっている。



設問16　過去１年間にどのようなボランティア活動等に参加しましたか。

【65歳以上からの回答】

○ 過去1年間にボランティア活動等に参加したと回答した高齢者の割合は、25.3％となっている。



※前回：令和３年県の施策に関する県民意識調査の結果。